土浦市の概要

★国登録有形文化財建造物★
いっしきけじゅうたくおもや
「一色家住宅主屋」

〇土浦市は、東に我が国第二の広さを誇る霞ケ浦、西に万葉の世から名峰と謳われた筑波山を臨む、水と緑に恵まれた歴史と伝統のある茨城県南部の中核都市して発展してきました。

〇東京から６０㎞圏内、茨城空港から約２０㎞、成田国際空港から約40㎞、筑波研究学園都市に隣接する等、地理的条件に恵まれています。

〇ＪＲ常磐線の「土浦駅」、「荒川沖駅」、「神立駅」の３駅や、常磐自動車道の土浦北ICが立地するなど交通幹線網が整っております。

- 地勢
  面積：122.89㎢（霞ケ浦の面積9.27㎢含む）
  東西：14.4㎢
  南北：17.8㎢
- 人口（R6.８月現在）
  142,281人

一色家住宅の概要①

一色家住宅主屋　外観

〇名称：一色家住宅主屋
　　国登録有形文化財（建造物）H13年に登録

〇所在地：茨城県土浦市西真鍋町10-4

〇建物の構造：
- 木造、平屋建、茅葺寄棟造り
- 建築面積：201.06㎡
- 敷地面積：約3,600㎡（庭園、山林、駐車場含む）
- 遠州流庭園（裏庭）、駐車場５台程度

※用途地域：第二種低層住居専用地域
（例）パン屋・菓子屋・飲食店等の店舗　など
また、本市建築審査会との協議等により、次のような活用用途も想定しております。
（例）宿泊施設…民泊程度の稼働率（年間180日）
　　研修施設…民泊程度の稼働率であり、旅館業法の許可が不要であるもの

一色家住宅の概要②

一色家住宅主屋　座敷

〇沿革

文久3(1863)年	常名の新郭に西川家主屋 （現一色家住宅）が造られる
明治時代	一色範疇が居宅として現在地に移築
昭和54(1979)年～ 平成19(2007)年頃	料亭「一色園」として利用
平成13(2001)年	国登録有形文化財に登録
平成21(2009)年～ 令和元(2019)年頃	和食「つじ山」として利用
令和3(2021)年	所有者より土浦市に寄贈

〇文化財としての価値：

- 江戸時代の武家住宅を農村集落に移築した希少な建築。
- 地方銀行経営者である一色範疇（※）の居宅。
- 茅葺の建築と一体となった貴重な遠州流庭園。

⇒幕末から近代にかけての歴史を伝える近代和風建築。

※一色範疇（いっしきはんちゅう）

一色家三代目。茨城県最初の国立銀行である第五十銀行を設立。

なお、第五十銀行と常盤銀行が合併して誕生したのが常陽銀行。

一色家住宅　庭園

前庭

裏庭（遠州流庭園）

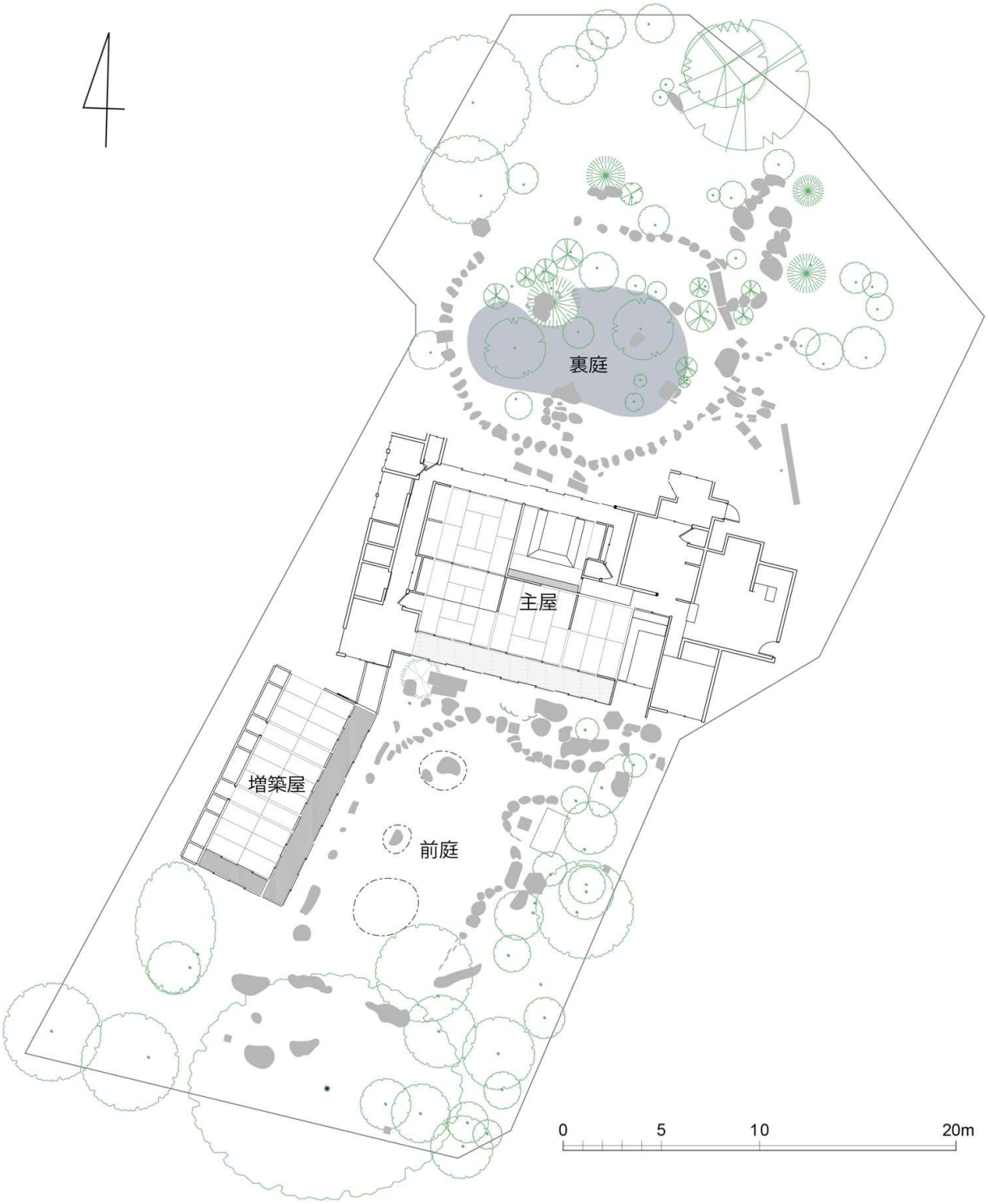
一色家住宅　座敷・駐車場

一色家住宅　座敷

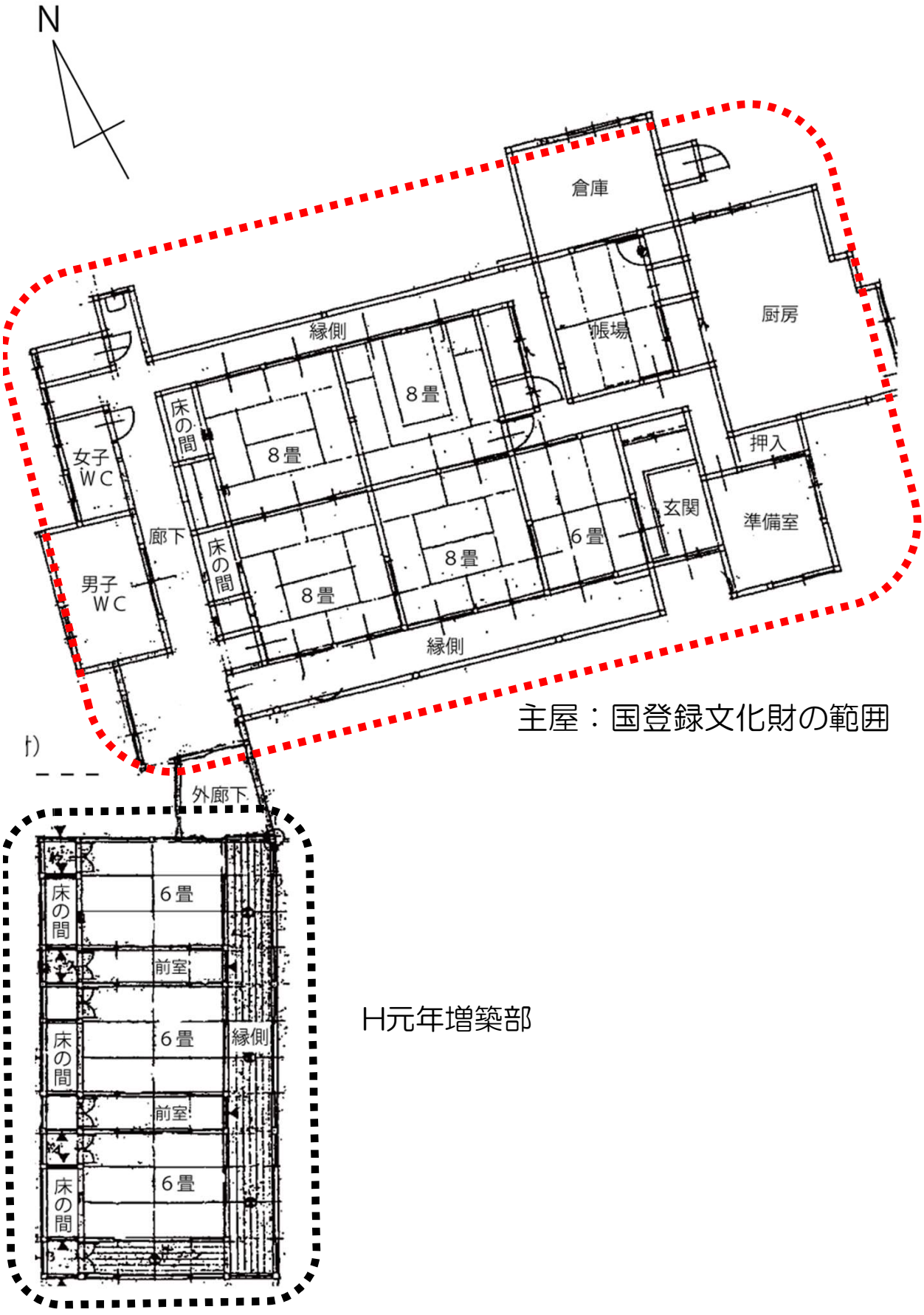
一色家住宅　駐車場

一色家住宅　平面図

4



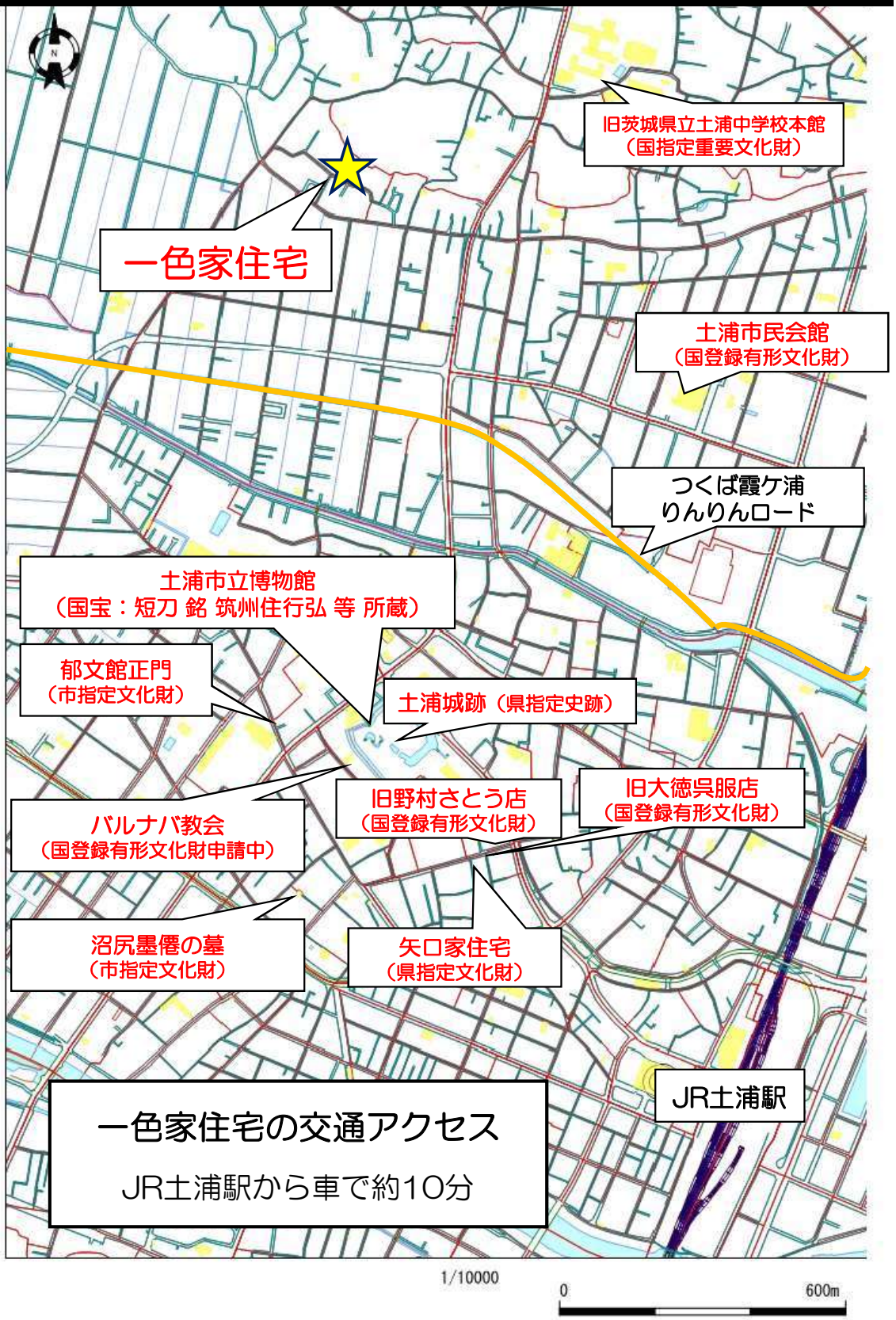
一色家住宅　平面拡大図



主屋：国登録文化財の範囲

H元年増築部

一色家住宅　周辺地図


旧茨城県立土浦中学校本館
（国指定重要文化財）
一色家住宅
土浦市民会館
（国登録有形文化財）
つくば霞ケ浦
りんりんロード
土浦市立博物館
（国宝：短刀 銘 筑州住行弘 等 所蔵）
郁文館正門
（市指定文化財）
土浦城跡（県指定史跡）
旧野村さとう店
（国登録有形文化財）
旧大徳呉服店
（国登録有形文化財）
バルナバ教会
（国登録有形文化財申請中）
沼尻墨僊の墓
（市指定文化財）
矢口家住宅
（県指定文化財）
JR土浦駅
一色家住宅の交通アクセス
JR土浦駅から車で約10分
1/10000
0
600m